

琉球大学学術リポジトリ

今日の米国の普及事業 (3)

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-05-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 古謝, 瑞幸, Koja, Zuiko メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/19815

今日の米国の普及事業 3

■ 篤志指導員

普及事業の目的の一つは地方における指導者の養成であるということはお前号でのべたが、その目的自体の外に篤志指導員の協力を得て普及員の仕事を能率増進せしめるといふねらいがある。地方に指導者を育成するということは全普及員に課された大きな使命である。地方の普及プログラムを順調に執行するためには訓練された篤志指導員の協力が絶体的に必要であるからである。

全米で活躍する篤志指導員の数は4H、生活改善を含めて120万人を上廻るといわれている。篤志指導員はことばの示す通り何の報酬もうけずに他人を指導する篤志家である。この役割を引受ける人は暇をもて余している人々ではないかと思われがちだが、むしろ物事に熱心な忙しい人が大方である。篤志指導員は農村では主に指導的階層の農夫、主婦であるが、都市近郊、都市になると学校の先生、会社員、栄養士、看護婦、電気屋さんなどといういろいろな職をもつ人々が見られる。

※ 篤志指導員の訓練

篤志指導員の訓練に際しては普及員が全責任をもってこれに当る。普及員による直接の訓練が多いけれども、大学の専門技術員、土地の有識者、退役した有能な篤志指導員なども起用する。訓練を受けた篤志指導員たちは速

やかに各自のクラブ員や隣人を集めて学んできた技術をデモンストレーションによって伝達する。また彼等は9万以上の4Hクラブ、6万5千以上の生活改善クラブのリーダーとして活躍するかたわら、普及員の助言の下に村落の改善にも奉仕する。

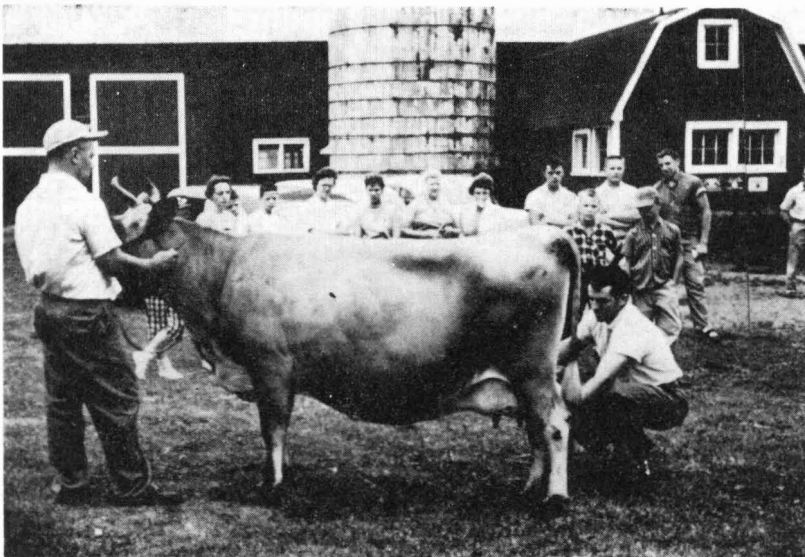
クラブが結成されると必ず1人以上の篤志指導員がついているが、適当な指導員を見つけることは生やさしいものではなく、地方によってはこれが隘路でもあるようだ。適任者であっても家庭的な都合で出来ない人がいるし、雑事で忙しいけれども社会奉仕、自己の勉強だといった見地から喜んで引受けてくれる人もいる。逆に名誉職？だからといって見栄のためになりたがる人もなきにしも非ずである。しかし、この人選に際しては普及部当局は指導者という大義に照らして慎重にのぞむことは申すまでもない。

無報酬にして重大な責任を負うて立つわけだが、一体どこにその仕事のみ力があるのかとミシガン州でゐる篤志指導員をつかまえて問うたら返事はこうだった。①他を指導するために絶えず訓練をうけるので自己の勉強になる。②青少年の育成、隣人の指導は立派な社会奉仕である。③若者を相手にすると心身が若がる。④働く事に趣味がある。⑤名誉である。

※ 篤志指導員の在任期間と退任理由

農務省が1954年に発表した調査結果があるのでそれを紹介しよう。

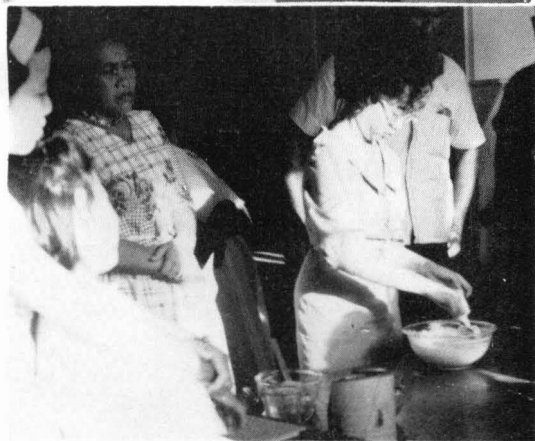
当局は100人の典型的な4H篤志指導員を対称にしたが、その中の27人は男性で73人は女性である。また、既婚者が93人であるが、当時又は過去において子供が4Hクラブに加入しているのは63人である。更に、部落の役員をかねているのは、87人でその中の半数以上は二つ以上の団体に属している人達である。在任期間は平均して3.4年で、その中の3分の1は約1年、



写真は普及員（牛の後脚を説明中）と協力して4Hクラブ員に牛の審査法を教える篤志指導員（牛の前）
(1959.7. ミシガン州)

次の3分の1は2年、残りの3分の1は4年以上となっている
 退任の理由は約20件も数えるがその中の主なものをひ
 ろってみると：

- ① 家事や職業と重複する。
- ② クラブ員の親や周囲の人々の興味と協力が欠けて
 いる。
- ③ 本人又は家庭の不健康のため。
- ④ 住所移転のため。
- ⑤ クラブ員の興味と協力が欠けている。
- ⑥ クラブのプログラムが多すぎる。
- ⑦ 審査能力が不十分である。
- ⑧ クラブ員の住いが散在して不便である。
- ⑨ クラブ活動のための時間がオーバーする。
- ⑩ 個人的な金銭の冗費がある。



写真

4H 及び参観者のためにワッフル(朝食のケーキ)の作り方のデモンストレーションをする篤志指導員(下)とクラブの幹部リーダー(上) 両者は親子で親のチャン夫人は小校の先生である
 (1962.11. ホノルル)

■ 普及員の活動

農業改良、生活改良、4Hの各普及員の総数は全国で約11,000人である。これは普及員が1か年間に接触する農夫、主婦、その他の普及事業利用者の数は23,000,000人以上に達する。その内訳を見ると農場及び家庭訪問、普及所来訪、電話による問合せなどである。また、会合の分野では、年間に動員する一般の人々の数は77,000,000人を上廻り、これは普通の説明会とデモンストレーションを合わせての記録である。専門技術員から受入れた新しい農業技術、新しい家政技術を一般の人々に伝達する講習会である。

更に、1,200,000人以上の篤志指導員の訓練を引受け、かつまた彼等と共に働く。

マスコミの発達により普及活動は一大躍進をとげたがその中でもラジオ、テレビの放送は秀れた教育手段として年に290,000回も取扱われている。都合のいい事には、ラジオ、テレビの放送局は一定の時間数は普及事業のプログラムを取扱うよう州法で規定されている。普及員は話したり、デモンストレーションをするのみならず、書く仕事も山程ある。日々の雑事の記録、月報だけでも大仕事だが、絶えずニュース ストーリーを書かねばならない。それは新聞記事として読者の目を喜ばせ、単項刷として農家に送り届けられる。また、専門技術員によって作られる普及冊子は33,000,000もあるが、これも知識や技術の泉として普及員の手を経て農家に送られる。

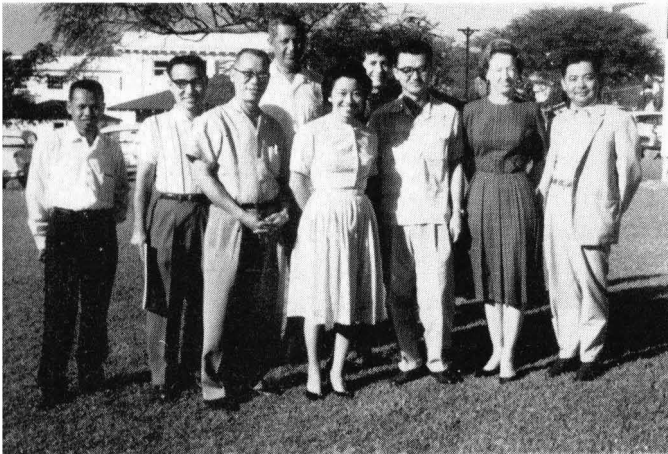
次に農業改良普及員の実際の指導の一例をあけてみよう。

ある農夫のトウモロコシの葉が黄色になりかけた。彼は多分害虫のためだろうと思った。まず普及所に電話して普及員に現場まで足を運んでもらった。それは害虫ではなく、土壌に原因があると普及員は判断した。普及員は早速その土壌のサンプルをとって州の土壌研究所に届け原因を究明せしめた。結果は肥料の養分欠乏であった。農夫は害虫駆除のために薬品を散布しようとしていた失先、普及員の指導で一挙両得をした。この様に普及員は農村における種々の問題の相談相手であり、先生である。
 (古謝瑞幸)

(普及員活動のつづき)



大学の専門教授をよんで生産者のためにリンゴのせんてい法の講習会 これを催すのも普及員の仕事 (1959.8. ミシガン州)



どこの普及所に行っても共通なのはすべての普及員が親しみやすい性格をもっているということである これは普及員の第一条件である (ハワイ州 南オハフ普及所のほがらか一家)



農場訪問でマルチについて指導する普及員 (1962.12. ハワイ州)